

ニュース第3号となる今回は、「第2回京浜島オープンファクトリー」の様子や参加者アンケートの結果をお知らせします。

## 第2回 京浜島オープンファクトリーを実施しました！

かつて島内で見られた「仲間回し」や「島内交流（顔が見える関係づくり）」を活発化させるため、島内の企業間の工場見学を行う『第2回京浜島オープンファクトリー』を実施しました。まずは“お隣さん”を知り、従業員同士の自然な交流から、今後、企業同士の新たな事業連携を築くことがねらいです。

10月27日（木）、11月1日（火）、11月2日（水）の3日間の見学会で、合計30社・31名の方にお越しいただきました。今回は、以下の3者の企業様の工場見学を行い、参加いただいた方々からの評判もよく、「また参加したい」という声もいただきました。

### 同和鍛造株式会社

#### 主な業務内容について

- ・永年培った高合金鍛造のノウハウを活かした、高品質な製品を提供しています。
- ・80種類以上の材質を取り扱い、短納期・迅速対応を実現しています。

「叩いてつくる」鍛造の高度な技術は“名工”の技によって支えられています。



品質力向上に向けて、最新鋭の試験・検査を行っています（引張試験の様子）



人の育成・品質の向上を常に図りグローバル・ニッチ・トップを目指します。



### 株式会社北嶋絞製作所

#### 主な業務内容について

- ・特殊殊金属のへら絞り加工を得意としています。
- ・大手が依頼する飛行機の部品から個人の注文まで受注しています。

へら絞りでは板状の金属を回転させ、専用工具を使って形をつくっていきます。



ステンレス皿づくりの体験も行いました。

パラボラアンテナなど巨大なものだと三人がかりで力を加えて作ります。



会社パンフレットなどに関しても社員の意見をもらいながら作成しています。



### 株式会社大岩商会

#### 主な業務内容について

- ・鉄鋼製品などの販売、シャーリング加工等を行っています。
- ・モノづくりを支える人と人のつながりの中から、新しい仕事・製品を生み出しています。

鉄に関するすべての商品を取り扱い、小ロット・短納期で対応しています。



シャーリング加工も行い、発注者のニーズにきめ細かく対応しています。



企業同士をつなぎ、新しい仕事をともに創っていきたいです。



## 第2回京浜島オープンファクトリー参加者アンケートにお寄せ頂いた満足した点や主なご意見

- ・ 普段あまり見られない工場内を拝見できて良かった。
- ・ 職人の業がすばらしかった。
- ・ 勉強になった。
- ・ 労働条件（仕事の内容は匠の域）の厳しい中、雇用対策を打たれ、積極経営されて素晴らしい会社と思った。
- ・ 人材の確保、定着率の向上に向けての取り組みについて、大変参考になるお話が聞けた。
- ・ 職人さんも年齢的に若い人が多くて驚いた。
- ・ 実際に絞りを体験できた点が素晴らしかった。
- ・ 思っていたよりも多種の取り扱いがあることを知り参考になった。
- ・ 普段見ることのない業種を見ることができた。
- ・ エアシェルターが印象的だった。
- ・ ものづくりに寄り添った卸売というお話に感動した。
- ・ 材料販売の企業には行く機会がなかったため、商流等勉強になった。
- ・ 夜遅くに行って交流会という社交会（飲み）をするのも良いかと思う。
- ・ 他方面の業界の話が聞けて勉強になった。
- ・ 大田区の工業高校として、地元産業の発展に協力させていただきたい。

今後、訪問先としてご協力いただける企業様は、是非、**連合会事務局（03-3790-0021）**までご連絡ください。

連合会では、京浜島で働く魅力を高めるため、京浜島の将来像（仮称 京浜島まちづくりビジョン）を検討しています。

### ～京浜島まちづくりビジョンについて～

昨年度（平成 27 年度）より、島の将来の絵姿を描く「（仮称）京浜島まちづくりビジョン」の検討を開始し、以下のような方針をたてました。

- ◇京浜島で培われた技術力・人材を掘り起こし、魅力（「仕事」「島」「技」）を「再発見」する。
- ◇「仕事」「島」「技」の魅力を高め、若い人にとっても働きたいと思える、魅力的な京浜島を生み出していく。
- ◇島全体で採算性、創造性、社会性、継続性を高め、世界から注目を集める京浜島ブランドを磨いていく。

これらの方針の元、試行的に様々なことに取り組みを進めています。

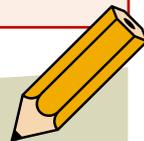
今後の「京浜島ニュース」では、京浜島まちづくりビジョン検討の経過の様子や、島の将来像実現に向けての取り組みを紹介していきます。

### 京浜島コラム # 2

前回は東京湾の埋立ての歴史について、江戸時代に隅田川河口付近にごみを主体とする埋立地が次々と誕生したことまで記しました。

その後、時代が変わり明治・大正になると、経済界からの要請や防災等の観点からも東京港の整備が必要になりました。

京浜島を含めたこの付近の埋め立てについては昭和 2 年、「京浜運河の開削と埋立地造成計画」までさかのぼります。この計画は品川区から大田区の羽田沖にかけて、海岸沿いに東西 2 列（ただし羽田沖は 1 列）、南北 5 列の計 9 つの埋立地（京浜一区～京浜九区）を造成するというものでした。京浜一区（現在の勝島あたり）の埋立後、諸事情により中断しましたが東京には依然として埋立ての権利は残っていたので、昭和 30 年代に「東京港港湾計画」に基づいて京浜二区、三区より、埋立て工事が再開されていきました。（京浜島連合会N）



発行

京浜島工業団地協同組合連合会

大田区 産業振興課 工業振興担当  
都市計画課 計画調整担当